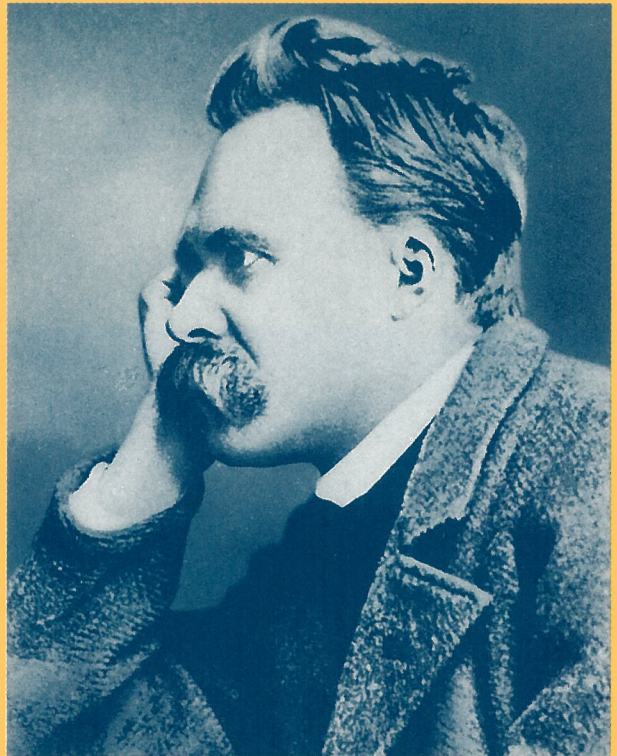


世界文豪読本全集

全3巻(第一書房版) / 監修・解説：谷沢 永一

海外文豪12人のコンパクトな作品集。気楽に手軽に
外国文学を読むための入門的全集。 発行：クレス出版



『世界文豪読本全集』について

関西大学名誉教授

谷 沢 永 一

『世界文豪読本全集』（全十二巻、昭和十二〜十三年）は戦前の日本経済が頂点に達した時期に刊行され、第一書房ならではの粛酒で端正な企画であった。

第一書房の長谷川巳之吉は、昭和出版界を独自の軌道で横切る感星であった。反骨の出版人、と目され、本づくりの名人、と称された独立独歩の編集者魂が、また新しく思うところあって、ここに新企画を立てたのである。いつも時代のちよつと先を行くような、文芸思潮の牽引力を以て任ずる第一書房が、『読本』と謳って、読み易い形式をとった。

海外作家作品のよみどころ勘どころ、よく検討して選んで抜き出した精髓の部分の初めて見参する緊張気味の読者に、まずはお近附きの印として、心易く提供するという本作りがあつてもよいではないか。それを気楽に味読して、心琴に触れ共鳴するところがあれば、改めて最初から身を乗り出して、全訳にじっくり取り組めばよいのだ。長谷川巳之吉の考えるところ、少し疎遠な感じがせぬでもない外国文学に、読者が早く気楽に馴染めるように、その媒介作用を有効に果たす本を作りたかつたのであろう。

ところが、そこはさすがに彼は時代感覚が鋭い。単に西欧の大家作家を常識的に集めるのではなく、また、古い新しいで線を引くのではなく、昭和十年前後の文壇および読書人が、同時代的な意識で関心を持っている作家たちを特に選りだしている。平素から怠りなく、アンテナを鋭くしている結果であらう。

ゲエテはもはや古典に属するが、亀井勝一郎によって現代的な問題に引き入れられた。ユウゴウは、豊島与志雄訳によつて蘇っている。教育学の盛り上がり、ルッソを呼び出す。トルストイをめぐって、正宗白鳥と小林秀雄が論争した。ジツドの転向が問題になっている。科学小説への関心が高まればウエルズだ。『ツルゲエネフ全集』が、隆章閣と六芸社と二種類も出ている。

生田長江訳『新訳決定版』ニイチエ全集』全十二巻が昭和十一年に完結した。この時期、ボードレルの全集はまだ出ていないが、ヴェルレエヌおよびランボオと共に常識であった。『ロレンス全集』は五巻で中絶しているが、ロレンス熱は異常に高かった。小林秀雄は昭和十年一月から『ドストエフスキイの生活』を連載して、十四年に刊行した。但し、これはE・H・カーの『ドストエフスキイ』『邦訳筑摩叢書』の剽窃であることがあきらかになっている。

そして、各巻の担当は、人選においても当を得ている。時代が過ぎてしまったけれども、当時はみんな中堅あるいは新進であつた。一般に講座とか叢書とか読本とか言え、どうしても二流の人を動員する傾きがあるけれども、さすがは長谷川巳之吉、為ることがきっちり締まっている。

ひとりだけ例を挙げて御参考に供しよう。世界で初めて『ヴァレリー全集』を完結させたのは我が国であり、筑摩書房の執念が実を結んだ。その中心となつて、殆どひとり、限定版で四方八方に散在しているヴァレリーの著作を、天晴れ完璧に蒐め得たのも、これまた佐藤正彰の執念の為せる業である。

『世界文豪読本全集』全3巻

第I巻

ゲエテ篇	高橋 健二 訳著
ニイチエ篇	阿部 六郎 訳著
ロレンス篇	伊藤 整 訳著
ウエルズ篇	深沢 正策 訳著

第II巻

トルストイ篇	米川 正夫 訳著
ドストイェフスキイ篇	神西 清 訳著
ツルゲエネフ篇	中山省三郎 訳著
ルッソ才篇	本田喜代治 訳著

第III巻

ジイド篇	河上徹太郎 訳著
ユウゴ才篇	井汲 清治 訳著
ボオドレエル篇	佐藤 朔 訳著
ヴァレリー篇	佐藤 正彰 訳著

我が祝祭

如何なる祝祭を私に告げるのか。私は祝祭を好まない。
夜な夜なの憩ひは疲れた者を恢復さすに十分だ。
眞の人間のまことの祝祭は行爲そのものだ。

* 戯曲断片『バンドオラ』（一〇四三―四五行）プロメテイスの言葉（一八〇七年）。

戀文の代筆

どんな鳥にでもこれを誘ふ餌があるやうに、人間は誰でもそれぞれ獨得な方法で導かれたり、誘惑されたりする。私は天性と教育と環境と習慣とによつて一切の粗野なものから遠ざけられてゐた。それで、下層階級のもの、特に職人とは屢々接觸したにもかかわらず、親密な關係は生じなかつた。何か並はづれたこと、恐らくは危険なことを企てるだけの大膽さは十分に持つてゐたし、それをやつて見る氣持になることも折々あつたが、私には、どういふ風に出してよいか、その呼吸が分らなかつた。

ところが、全く思ひがけない成行きで私は、大きな危険と、少くとも一時は困惑に陥られるやうな事情にまきこまれた。私がビュラデスと呼んでゐた少年に對する以前の親しい關係は青年時代まで續いた。尤もお互ひの両親が餘り折合ひがよくなかつたので、我々も會ふことが段々稀になつた。しかし、會へば、いつでもすぐに昔ながらの友情の歡聲が胸をついて出るのだった。或る時、我々は、聖ガレンの内門と外門の間にあつて恰好な散歩場になつてゐた並木道で出合つた。挨拶がすむや否や、彼は私に、「君の詩は僕にとつちや依然昔と變らないよ。この間君から聞いた詩を二三の愉快な仲間を読んでやつたら、君の作だと言ふことを誰も信じようとしななんだ。」と言つた。——「そんなことはどうでもいい。我々は詩を作りたくて作り、それを楽しんでゐるのだ。他の人はなんでも好きなやうに考へたり言つたりするがいいさ。」と私は答へた。

「それですこに、信じない奴が来たよ。」と友達と言つた。「その話はよさう。無駄なことだ。政宗させることは出来ないんだから。」と私は返事した。「どうしてどうして。あのまま放任しておくわけには行かん。」と友達は言つた。
ちよつと月並な話をした後で、私に好意を持ちすぎてゐる若者は、黙つてゐられなくなり、稍々氣色ばんで、一人の男に言つた。「これがあの美しい詩を作つた友達だよ。君達はそのを信じようとしなないがね。」さうだとしても、この人はそれをきつと悪くはとらなだらう。ああした詩を作るには、今の若さで持ち得る以上の博學が必要だと信じたとしたら、あの人に對して敬意を表することに

谷沢 永一 監修・解説

世界文豪読本全集 全3巻

● A4判（一頁に原本（四六判）四頁分の新編集、全12巻を全3巻に合本、月報付）

● 上製函入りクロス装／本文クリーム中性紙

● 揃定価四五、〇〇〇円（税別）

● 二〇〇一年三月末刊行

● ISBN4-87733-123-9 C3397

近代文学作品論集成

各巻 四、八〇〇円

● 第一回配本 好評既刊

● 2 森 鷗外『舞姫』作品論集

● 4 芥川龍之介『羅生門』作品論集

● 第二回配本 好評既刊

● 6 川端康成『伊豆の踊子』作品論集

● 7 井伏鱒二『山椒魚』作品論集

● 第三回配本（平成13年4月）

● 3 夏目漱石『こころ』作品論集

● 9 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』作品論集

● 第四回配本（平成13年7月）

● 1 樋口一葉『たけくらべ』作品論集

● 8 太宰 治『走れメロス』作品論集

● 第五回配本（平成13年10月）

● 5 志賀直哉『暗夜行路』作品論集

● 10 中島 敦『山月記』作品論集

● クレス出版 好評既刊書

● 神西清日記 昭和十八、十九年

石内 徹解説 多才な文学者の生活や感想、戦時中の社会の動き、時代を反映した興味深い見聞や体験を見事な文章で伝える。 定価九、〇〇〇円

荷風文学考

石内 徹著 孤高の人、市隠の文学。永井荷風の「人と作品」を研究した論文一四編。荷風と太宰、荷風・浅草・異郷ほか。 定価四、七〇〇円

野口米次郎選集

全3巻 丸山信解説
英詩人としてその名を知られる「ヨネ・ノグチ」こと野口米次郎の詩論、文学・芸術論を新に編集
1 俳句和歌論 三、二〇〇円 2 日本絵画芸術論
3 海外文学・詩論 各三、四〇〇円

市島春城随筆集

全11巻 藤原秀之解説
新聞記者、政治家、図書館人、文人春城——彼の体験や交友、早稲田や大隈重信、趣味である古書、書翰蒐集や印章などを綴った随筆を刊行。 揃定価一〇二、〇〇〇円

俚言集覧 自筆稿本版

全11巻 太田全斎編 ことわざ研究会監修・解説
江戸時代の代表的な三大国語辞書の一つ『俚言集覧』の唯一の稿本を『移山伊呂波集』とともに復刻。活字本にはない図像や刺記、書き込み等多く。 揃定価一五〇、〇〇〇円

徳川三百年人物大鑑

全5巻 長田偶得編
徳川三百年間に於ける思想界に勢力のあった碩学鴻儒、文学者美術工芸家名僧、義人烈士等七十二名の伝記集。年譜・肖像画付。揃定価七六、〇〇〇円

芭蕉研究論稿集成

全5巻 久富哲雄監修
明治大正、昭和前期に雑誌に発表された芭蕉研究に関する論稿を、特集号はそのままに、その他を主題別に分類して収録。 揃定価八〇、〇〇〇円

芭蕉研究資料集成

昭和前期篇全19巻 久富哲雄監修・解説
俳諧の世界のみならず、日本文学全体に多大な影響をおよぼした芭蕉の没後三百年を記念して、人物・作品の価値ある研究書を集成。 揃定価二七五、〇〇〇円

蕪村研究資料集成

全17巻 久富哲雄・谷地快一監修・解説
日本・中国を問わず、古典に親しみ、俳諧に絵画に、自在なる境地を志向した蕪村の明治・大正期に刊行された基礎的研究資料を集成。 揃定価一八六、〇〇〇円

西鶴研究資料集成

全8巻 竹野静雄監修・解説
江戸時代の浮世草子作者・俳諧師井原西鶴の没後三百年を記念して、明治大正、昭和初期に発表された資料約四七〇点を纏めて刊行。 揃定価二二六、〇〇〇円

若月保治浄瑠璃著作集

全7巻 秋本鈴史・和田修・林久美子・坂口弘之解説
浄瑠璃研究の第一人者若月保治の代表作を復刻。
① 近松人形浄瑠璃の研究 定価二二、〇〇〇円
② 人形浄瑠璃史研究 定価二五、〇〇〇円
③ 近世初期国劇の研究 定価一三、〇〇〇円
④ 古浄瑠璃の研究 全四巻揃定価九五、〇〇〇円

物語文学研究叢書

全26巻 神野藤昭夫監修・解説
明治から昭和三十年代までに刊行された、今後の物語研究に資する著作を、個々の物語を扱ったものと物語を広く扱ったものとに別けて刊行。 揃定価二二七、〇〇〇円

源氏物語研究叢書

全17巻 日向一雅監修・解説
明治から昭和二十年代までを中心として、源氏物語の主要な研究書を網羅。近代における研究史を顧みること、細分化した研究を統合。 揃定価一七五、〇〇〇円

第I期全10巻